

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773700469		
法人名	株式会社ライフサポートジャパン		
事業所名	ゆうとぴ庵 摂津・千里丘		
サービス種別	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府摂津市千里丘東1-13-7		
自己評価作成日	平成29年11月7日	評価結果市町村受理日	平成30年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	平成29年11月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆうとぴ庵 摂津・千里丘では地域との関わりを大切にしており自治会に加入しております。自治会で行われる夏祭りや運動会などのイベントに積極的に参加し、また地域の防災訓練などへも参加して地域の一員としての活動を行っております。他にもご近所の皆様と花火大会を開催し地域交流を図ったり、ボランティアが運営する認知症カフェにも協力し一緒に開催するなど活発な活動を行っております。施設内でも様々なレクリエーションを展開して主に季節を感じていただける行事を企画運営させていただいております。今後も地域に開かれたアットホームなグループホームを目指して取り組んでいきたいと思ひます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅が近く交通や買い物などに便利な場所に立地している。周囲を住宅に囲まれ、地域とのつながりが強く交流できる環境である。車イスが必要な人も含め、日々積極的に外出支援に取り組んでいる。認知症ボランティアの活動拠点としての役割を継続して担い、定例会議の開催で情報交換し協力体制がある。認知症カフェや花火大会等、地域の方の来訪もある。ボランティアの協力を得て、歌や演奏の鑑賞、制作、食事やおやつ作り、外出支援等、地域の方との交流の機会作りに努めている。個別具体的な介護計画を策定し、項目ごとに実施状況を把握するモニタリング・本人視点でのアセスメント等事業所独自の工夫が見られる。年間研修計画に沿った研修を、全員参加できるように複数回行い、職員の資質向上に努めている。職員の定着率が良く、ケアの安定につながっている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 評価	第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を持ち各フロア毎に掲げ理念への理解を深め実践に繋げています。	法人理念の「より良い介護」「感動ある介護」と、8項目の具体的な基本方針を明文化している。基本方針に地域密着型サービスとしての意義を盛り込んでいる。理念と基本方針を、職員・利用者・家族の目にふれやすい玄関と各フロアに掲示し共有と浸透を図っている。新人研修で説明すると共に、年間計画に基づいた研修の中でも説明し、理解を深めている。理念を基に年間目標を立て、理念の実践に取り組んでいる。	年間目標の実践状況の把握と評価を行い、次年度の目標策定につなげ、継続的に理念の実践に取り組むことを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として地域との交流を日常的に行っています。	自治会に加入し、自治会活動に参加し、自治会長からの協力も大きい。買物や散歩等、車椅子利用の方も含め日常的に地域に出かける機会を設けている。神社で行われるフリーマーケット・太鼓演奏会、地域の運動会・防災訓練に参加している。事業所の前庭を提供して行う地域の花火大会も継続している。ボランティアの来訪も多く、歌や三味線・大正琴・アコーディオン演奏、作品制作、食事・おやつ作りを一緒に楽しみ交流している。認知症ボランティアの活動拠点としての役割を継続して担い、ボランティアとの定例会議を開催し、地域行事や事業所行事の情報を交換する等協力体制がある。認知症オープンカフェの開催、認知症サポーター研修の講師等、地域貢献に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ボランティアの育成に協力し貢献しています。		

ゆうとぴ庵摂津千里丘

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を踏まえサービス向上に役立てています。	家族代表者・高齢介護課職員・地域包括支援センター職員・自治会長が出席して年6回開催している。入居者も当日の状況で入れ替わり参加している。会議では、利用者の状況・事業所の活動内容・今後の予定等を報告し、参加者からの意見・提案・情報等を受けサービスに反映させている。ゆうとぴ庵通信で家族の参加を呼び掛けている。	構成メンバーとして、知見者の参加を検討することが望まれる。運営推進会議の議事録は、個人情報に配慮したうえで、公開することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のイベントへの参加や会議、研修などを通じて連携を図っています。	運営推進会議に市職員・地域包括支援センター職員の参加があり、事業所の状況・活動の報告により把握と連携を図っている。認知症プロジェクトの協働や介護相談員の月1回の訪問を通して、市との協力関係がある。事業者連絡会で介護の日のイベント開催に参加し、市や社会福祉協議会と連携している。生活支援課の職員と協同し、福祉的支援を必要とする利用者を支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践するため定期的な研修を行い職員全員に周知徹底を図っています。	契約時に、拘束廃止についての方針を利用者・家族に説明している。年間計画に位置付け、「高齢者虐待防止・身体拘束廃止」についての研修を年2回実施している。全員が受講できるように研修を複数回実施し、研修終了後はレポート提出を義務付け習熟度を確認している。「接遇研修」の中で、言葉遣いについて学ぶ機会を設け、不適切な言葉かけや対応について理解を深めている。気になる言葉かけや対応があれば、フロアミーティングで確認し、意識向上に努めている。	

ゆうとぴ庵摂津千里丘

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のため研修を定期的に行い事業所内で虐待が発生しないよう防止に努めています。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度など研修を通じて学ぶ機会を持ち必要な場面で活用できるようにしています。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約事項について十分な説明を行いご理解が得られるよう努めています。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を常設したり直接のご意見がないかなど来庵時に確認しています。	家族の面会時に職員から近況を報告し、家族の意見・要望の把握に努めている。毎月「ゆうとぴ庵通信」と利用者個々の「近況報告」を送り、家族から意見や要望が出しやすいように工夫している。運営推進会議で、利用者・家族が外部者にも意見や要望を表せる機会を設けている。利用者・家族からの意見・要望は申し送りノートで伝達・共有している。内容に応じてリーダーが対応し、フロアーミーティングでホーム長を交え検討している。意見箱も設置している。	

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各種会議を実施する中で意見、提案などヒヤリングし反映させています	ホーム長は常に職員とのコミュニケーションを心がけ、職員の意見や提案を聞く機会を持ち、話しやすい関係づくりに努めている。また、毎月の会議や各委員会にホーム長が参加し、職員の意見・提案を把握し、運営やサービスに反映している。馴染みの関係に配慮して、職員の異動は行われていない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のバックアップなど向上心を持って働ける環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修への参加を呼びかけ育てる環境を整備しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所での行事に外部の方を招き交流できる機会など設けています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様にもご協力いただき不安や要望に耳を傾け関係作りに努めています。		

ゆうとぴ庵摂津千里丘

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望など事前に確認しサービスの提供を行っています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族様の直ぐに必要なサービスの提供ができるよう対応に努めています。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支えあう関係であることを自覚し共に生活する者として関係構築を心がけています。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と本人様の絆を大切にしながら施設での生活の支えとなってもらっています。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしてきた友人や場所との交流が継続できるよう支援に努めています。	入居時に把握した情報や、入居後の日々の会話から利用者の馴染みの場所や人について把握に努めている。家族・親戚・近隣の友人等の訪問時は、居室や談話室でゆっくり面会できるように配慮している。近隣に居住していた利用者は、日々の散歩時に馴染みの場所に出かけている。希望があれば、馴染みの喫茶店や買い物に、個別の外出支援を行っている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人が孤立することなく関わり合い、支えあう関係ができるよう支援行っています。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もこれまでの関係を維持しながら必要に応じて相談・支援を行っています。		

自己 者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いを大切に本人の立場に立って検討しています。	入居時に把握した利用者・家族の思いや意向はフェイスシートに記録して共有している。入居後、日々心身の変化が見られる中、利用者に寄り添い思いの把握に努めている。意思疎通が困難な利用者には、表情や反応から思いを汲み取り、家族からの意見や情報も採り入れて、サービス計画や支援に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族様から生活環境などヒヤリング 行い経緯かの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活をしっかりと確認して現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良い暮らしの為に話し合いそれぞれの意見を反映できるよう努めています。	フェイスシート・アセスメントシートで課題を抽出し、施設サービス計画を作成している。実施状況は、各種チェック表に詳細に記録し、ケア実施表で短期目標毎に実施状況を確認している。担当職員が毎月モニタリングを行い、毎月のフロア会議でモニタリングをもとに利用者個々の支援状況を検討している。定期的には3カ月に1回、施設サービス計画書の見直しを実施し、見直し時には再アセスメントを行っている。	モニタリングシートには、評価欄を設けることが望まれる。また、施設サービス計画書見直し時に把握した、利用者・家族の意向や、主治医等関係者の意見を、カンファレンス記録に一元的に記録してはどうか。

ゆうとぴ庵摂津千里丘

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの記録を取り情報を共有し次の介護に活かせるよう取り組んでいます。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これまでにないニーズであっても対応できるよう検討し柔軟な取り組みを心がけています。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し本人様が生き生きと暮らせるよう支援しています。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族様の希望を受けかかりつけ医と連携しています。	入居時に利用者・家族の意向を確認し、意向に添った受診支援を行っている。内科は同建物内のクリニックから往診を受け、歯科・精神科・整形外科も往診が受けられる体制がある。その他の受診は家族の同行をお願いしているが、状況に応じて臨機応変に職員が同行している。家族同行で受診する場合は、利用者の状態を書面にして家族に手渡し、医療機関に情報提供している。バイタルチェック表に往診・通院の結果を記録する書式があり、申し送りノートにの記載して共有している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とも連携を行い適切な看護が受けられるよう支援しています。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側と情報交換を行い早期の退院の対応などできるよう関係作りを行っています。		

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にも重度化した際の取り組みなど十分に説明行いまた必要に応じて説明を繰り返し行っています。	家族の希望があれば、主治医の協力の下で看取りを行う方針である。契約時に「看取りに関する指針」に沿って、事業所の方針を説明し、「同意書」で同意を得ている。重度化が進んだ段階で主治医の説明を受け、再度意向を確認し、看取りの「施設サービス計画書」を作成し、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。2年に1回は重度化・看取りに対しての研修を実施し、職員の周知を図っている。	看取りについての話し合いの記録・意向の確認・経過の内容等は、個別のシートに記録することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習など学んだり初期対応ができるよう緊急時に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害に対する知識を身につけるとともに地域との協力体制を築いています。	毎年2回、昼夜想定で利用者・近隣住民参加の下、消火・通報・避難の総合訓練を実施している。訓練実施後は資料の回覧を行い、職員全員が順次参加できるように調整する等、周知を図っている。非常災害時防災マニュアルを作成し、「非常災害対策研修」を実施している。地域の防災訓練にも参加し、地域との連携に努めている。フロアごとに、非常持ち出し袋を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し言葉掛けも注意しています。	法人の基本方針に「入居者様の自尊心と人生を尊重する」を明示し、利用者個々の誇りやプライバシーを損ねない支援に努めている。年間計画をもとに、「プライバシー保護研修」「接遇マナー研修」を実施し、適切な言葉遣いや対応について学ぶ機会を持っている。気になる言葉かけや対応があれば、個別に注意を促したり、ミーティングで話し合っている。個人記録類は事務所の鍵のかかる書庫に保管し、個人情報の適切な管理に努めている。	

ゆうとぴ庵 津千里丘

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の希望を伺い自己決定の働きかけを そいえます。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活を実現できるよう支援行っ ています。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	整容やお化粧などその人らしさを表せるよう 支援しています。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	1人1人の力を活用して準備から片付けまで 楽しみが広がるよう支援しています。	食事は業者から献立に沿った材料の搬入を受け、フロアで手作りして提供している。摂取量を 食事報告書に献立毎に詳細に記録し、利用者の 摂食状況や意見を食事委員から業者に伝え、献立に反映されている。嚥下能力に合わせた食事形態、アレルギーに対する代替え食等、 フロアで個別に対応している。利用者の身体状況や力量に応じて、野菜の下ごしらえ、食器洗い、味見等に参加できるように支援している。フロア毎に食事レク・おやつレクを実施し、喫茶・外食の個別支援を行う等、変化を楽しむ取り組みも行っている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量をチェックし習慣 に応じた支援をしています。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	口腔内の清潔保持をその人の力に合わせて 行っています。		

ゆうとぴ庵摂津千里丘

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを考慮し誘導行うなど少しでも自立した排泄ができるよう支援しています。	排泄チェック表を活用し、利用者個々の排泄パターンや排泄状況を把握し、できる限りトイレでの排泄を支援している。少し早めの誘導により、不快感や排泄用品の軽減に努めている。毎月のフロアミーティングで、現状に即した介助方法や排泄用具の使用について検討している。声かけやドアの開閉への配慮など、羞恥心やプライバシーへの配慮に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動の促しなど個々に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様の意向を確認しながら入浴のタイミングを調整できるよう支援しています。	週2～3回午後入浴を基本としているが、利用者の体調や希望に応じて、回数や時間帯など柔軟に対応している。拒否のある場合は、無理強いせず、タイミングや声かけに工夫している。身体状況に応じて、2人介助で安全に浴槽での入浴ができるように支援している。ゆず湯・しょうぶ湯・入浴剤などで、入浴が楽しめるようにも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間であっても休息が必要な場合状況に応じて休んでいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の知識を学び症状の変化を確認しながら使用しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の力を活かした役割や楽しみごとなど企画し支援しています。		

自己	者第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出ができるようご家族様や地域の協力を得て支援しています。	気候や体調に合わせて、日常的に事業所の近隣や神社への散歩、また、買い物に出かけている。車いす介助研修を受講したボランティアの協力を得て、車いすを使用する利用者を含め、外出の機会が増やせるように取り組んでいる。事業所の外出行事計画を立て、初詣・春の花見・チューリップフェスタ・バラ公園・紅葉散策等、季節感のある外出も計画的に行っている。また、地域の夏祭り、運動会・市主催のコミュニティプラザのイベントに出かける機会もある。天候等で外出しにくい時期は、事業所の玄関前のスペースで外気浴やプランターの花の手入れを行う等、戸外で気分転換を図る時間を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際など本人様がお金を使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などできるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間が落ち着いた生活感のある空間として居心地良く利用いただけるよう工夫しています。	共有空間は、明るく、整理整頓されて清潔感があり、落ち着いて居心地よく過ごせるように配慮している。長い廊下には季節感のある手作りの飾りや、1年間の行事の写真を掲示し、歩行練習や気分転換を図ることができる環境がある。また、廊下の一角にソファを置き、気の合った利用者同士や一人でもくつろげるスペースとなっている。共有空間に面した調理場から調理の音や匂いが利用者への五感刺激となり、家庭的な雰囲気が感じられる。	

ゆうとぴ庵摂津千里丘

自己 者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で思い思いに過ごせるよう居場所の工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内においては本人様が居心地よく暮らせるよう使い慣れたものを中心にして空間作りをしています。	居室の入り口には、表札や目印を表示して、部屋間違いのないように配慮している。ベッド・テーブル・椅子・クローゼット以外は、使い慣れた家具や人形・仏壇・アルバム等大切にしてきた品物を持ち込み、馴染みのある環境で落ち着いて生活できるように支援している。家族の写真や自身の作品を飾る等、その人らしい居室づくりを行っている。利用者個々に担当制をとっており、季節の衣類の入れ替えや環境整備など、細やかに支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様のできる力を活かしながら安全に配慮して工夫しています。		